

北海道スポーツ賞及び北海道スポーツ奨励賞

北海道教育委員会では、平成21年度北海道スポーツ賞及び北海道スポーツ奨励賞の受賞者を決定いたしました。受賞者は、次のとおりです。(五十音順・敬称略)

【スポーツの振興に寄与された方】

◆須貝 忠吉 (すがい ちゅうきち) /小樽市/社団法人北海道柔道連盟名誉会長

戦前から、全日本柔道選手権等、柔道の第一人者として活躍し、昭和40年から社団法人北海道柔道連盟の最高審議員、理事、常任理事、副会長、会長、名誉会長を歴任するなど本道の指導者の最高峰として精力的に活動し、オリンピック選手等多数の選手を輩出してきた。

また、昭和50年から昭和61年まで財団法人北海道体育協会の評議員を務め、柔道に限らず道内のスポーツ振興に寄与してきた。

◆高坂 猛 (たかさか たけし) /札幌市/北海道バレーボール協会副理事長

長年にわたり、バレーボールの指導及びチームの育成に努め、競技力の向上を図るとともに、札幌市民体育大会の企画運営にかかわり、特にバレーボール競技の活性化に貢献してきた。

また、生涯スポーツとしてのソフトバレーボールの普及にいち早く取り組み、バレーボール協会ソフトバレーボール部を札幌ソフトバレーボール連盟として独立させたほか、全道・全国大会を始め国際大会の運営責任者としてその任に当たり、バレーボールを通じて、スポーツに対する札幌市民の関心を高めるなど、スポーツ振興に寄与してきた。

◆中嶋 進 (なかじま すずむ) /釧路町/北海道スケート連盟理事

昭和37年から自身も日本スケート界の選手として活躍するとともに、昭和46年以降は本道におけるスピードスケート指導者として精力的に活動し、日本のスピードスケート界を代表する多くのトップスケーターを輩出してきた。

また、釧路スケート連盟の理事長、財団法人北海道スケート連盟の理事、財団法人日本スケート連盟の理事を歴任し、指導者の養成と競技力の向上を図るとともに、国民体育大会北海道選手団の監督を永年務め26回の優勝を含む多数の好成績を北海道に導いた。

◆中村 啓二郎 (なかむら けいじろう) /札幌市/北海道スキー指導者協会副会長

長きにわたり、スキー指導者の養成に尽力してきたほか、小中学校のスキー学習における教材用8ミリの制作やカリキュラムの整備などを行い、スキーの普及促進に貢献してきた。

また、ユニバーシアード、オリンピック、全日本選手権大会、ワールドカップ等の運営に参加し、特に2007年ノルディックスキー世界選手権札幌大会の招致と開催運営に秀でた手腕を発揮し、大会を成功に導いた。

◆畑中 弘 (はたなか ひろし) /札幌市/財団法人北海道スケート連盟理事

長きに渡り、札幌市及び北海道の中学校体育連盟において、部活動の振興を図るとともに、スピードスケートの指導者として尽力してきた。

また、冬季オリンピック札幌大会や国民体育大会など各種競技大会の選手団役員、競技役員として参加するとともに、スケート競技の普及促進や指導に務めてきたほか、北海道の競技スポーツの普及と強化のため、財団法人北海道体育協会の役員として中心となって貢献してきた。

